

- 大学ごとに個別に運営すべき 398 (56%)
 - 学会や NPO 法人が中心になりセミナー形式で運用すべき 261 (37%)
 - 企業がコマーシャルベースで開催すべき 104 (15%)
 - その他 35 (5%)
- (自由記載：費用を安価に 2、国の援助が必要 2、体制の整備が必要 2、わからない 4、他)

資料2 全国の医学部・歯学部の解剖学教室に対するアンケート調査と集計結果

	回答数		回答率 (%)
	総数	回答数	
医学部	80	77	96%
歯学部	29	25	86%
総数	109	102	94%

回答の内訳 (複数回答可)

1-1. 外科系医療技術修練において、複雑で難解な解剖の領域では cadaver を使用した手術手技実習が有効であり、日本においても実施することが求められているという現状をご理解いただけましたでしょうか？

	医学部	歯学部	総数
● 理解している。	70 (93%)	24 (96%)	94 (94%)
● 理解できない。	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
● どちらともいえない。	5 (7%)	1 (4%)	6 (6%)
(自由記載：外科医全体のニーズが不明 1)			

1-2. 医学生に対する解剖実習以外に、献体を使用した活動の実績はありますか？

	医学部	歯学部	総数
● ない。(→質問 4. にお進みください)	4 (5%)	11 (46%)	15 (15%)
● 医学生に対する系統解剖実習以外の、解剖を目的とした実習・研究に使用している。			
例：膝関節外科解剖の研究、肝鋳型標本作成	65 (87%)	13 (54%)	78 (79%)
● 医師の手術手技実習にも使用している。	37 (49%)	5 (21%)	42 (42%)
● 上記以外にも使用している。	8 (11%)	1 (4%)	9 (9%)
(自由記載：コメディカル実習見学 2、医師の手術手技教育・勉強会 (実習ではない) 2、他)			

2. 学生実習以外に献体を使用した活動実績がある場合 (手術手技実習も含め)、その内容、参加者、時期、定期開催か否か等につきできるだけ詳細にお書きください。資料等があればコピーを添付していただければ幸いです。

資料4に記載

3-1. 医師の手術手技実習を行っている場合、実施することになった理由、経緯を教えてください。

資料5に記載

3-2. 医師の手術手技実習を行っている場合、参加する医師の範囲を教えてください。

	医学部	歯学部	総数
● 大学内のみ	27 (61%)	2 (40%)	29 (59%)
● 関連施設を含む限定された施設	16 (36%)	2 (40%)	18 (37%)
● 公募による自由参加	4 (9%)	0 (0%)	4 (8%)
● その他：	7 (16%)	1 (20%)	8 (16%)
(自由記載：診療科に一任 4、学会関連 2、他)			

3-3. 医師の手術手技実習を行っている場合、献体の保存方法についてお伺いします。

	医学部	歯学部	総数
● 学生実習と同じホルマリン固定。	44 (100%)	5 (100%)	49 (100%)
● 凍結保存献体を解凍して使用している。	4 (9%)	1 (20%)	5 (10%)
● その他の固定保存法 (Thiel 固定など)：	2 (5%)	0 (0%)	2 (4%)

(自由記載：グルタルアルデヒドベース固定液及び中和液 1、未固定冷蔵保存の後ホルマリン固定 1)

3-4. 医師の手術手技実習を行っている場合、運用面での配慮・工夫について教えてください。

	医学部	歯学部	総数
● 通常の献体に対する同意に加え、特別な同意書を作成し承諾をとっている。	12 (30%)	1 (20%)	13 (29%)
● 費用負担については、参加者の実費負担を徴収している。	4 (10%)	1 (20%)	5 (11%)
● 特定の分野・領域の手術手技実習のみ引き受けている。	14 (35%)	4 (80%)	18 (40%)

(脳外科 8、耳鼻科・頭頸部外科 3、整形外科 2、口腔外科 1)

● その他：	20 (50%)	1 (20%)	21 (47%)
(自由記載：「卒後教育」として特別な同意書は作成していない 8、ガイドライン・委員会などを設置 2、学生教育の一環として 2、献体団体へ説明 2、遺族へ説明 1、他)			

3-5. 医師の手術手技実習を行っている場合、今後も継続あるいはさらに発展させていくための課題についてご意見をきかせてください。

	医学部	歯学部	総数
● 屍体解剖保存法の解釈など、法的な問題点を払拭して、公明正大に合法的に行えるようにすべきである。	28 (72%)	5 (100%)	33 (75%)
● 献体者・団体の理解、承諾が得られていないと思われるので、十分な説明が必要。	17 (44%)	1 (20%)	18 (41%)

- 学生実習、研究等の本来業務が評価として優先されるので、医師の手術手技実習も業績評価に取り入れるべきである。

12 (31%) 1 (20%) 13 (30%)

- 運営予算が不足している。 13 (33%) 1 (20%) 14 (32%)
- マンパワーが不足している。 23 (59%) 3 (60%) 26 (59%)
- 献体凍結保存用の設備がない。 10 (26%) 1 (20%) 11 (25%)
- それ以外の設備面での不足： 7 (18%) 1 (20%) 8 (18%)

(自由記載：解剖学実習とは別の実習用スペース 4、手術器具 3、感染対策 1)

- その他：以下にお書きください。 6 (15%) 0 (0%) 6 (14%)

(自由記載：献体団体へ説明 2、解剖学教室のみでの運営は不可能 1、学会としての統一見解を望む 1、外科医師が死体解剖資格認定を取得すべき 1、解剖学講座・篤志献体団体とは独立して運営すべき 1、外科が御遺体を集めるべき 1、他)

4. (医学生に対する解剖実習以外に、献体を使用した活動の実績がない施設へ) 外科系医師から手術手技実習の協力依頼があった場合、どう対応されますか？

医学部 歯学部 総数

- すべてことわる。(→質問 5. にお進みください) 5 (10%) 4 (18%) 9 (13%)
- 引き受けたいが、現状では不可能。(→質問 6. にお進みください) 8 (16%) 12 (55%) 20 (28%)
- できる範囲で引き受ける。(→質問 6. にお進みください) 34 (68%) 5 (23%) 39 (54%)
- その他：以下にお書きください。 5 (10%) 1 (5%) 6 (8%)

(自由記載：教育研究の要素があれば実施可能 2、代表者の死体解剖資格取得が条件 1、他)

5. (医学生に対する解剖実習以外に、献体を使用した活動の実績がない施設へ) その理由を教えてください

医学部 歯学部 総数

- 理念として、献体を使用した手術手技実習は本来行うべきでないと考えている。 1 (17%) 2 (22%) 3 (20%)
(自由記載：「人体実験」と等しいと受取る場合も想定される)
- 屍体解剖保存法の解釈など、法的な問題点が払拭されていない。 5 (83%) 9 (100%) 14 (93%)
- 献体者・団体の理解、承諾が得られていない。 5 (83%) 8 (89%) 13 (87%)

- 医師の手術手技実習を行っても業績として評価されない。 0 (0%) 0 (0%) 0 (0%)
- その他：以下にお書きください。 4 (67%) 0 (0%) 4 (27%)

(自由記載：ハード面が不十分 3、献体数が不十分 2、現在の解剖学講座・篤志献体団体とは独立して新たに運営すべき 2、管理体制が不十分 1、他)

6. (医学生に対する解剖実習以外に、献体を使用した活動の実績がない施設へ) 医師の手術手技実習を行っていくための課題についてご意見をきかせてください。

医学部 歯学部 総数

- ▶ 屍体解剖保存法の解釈など、法的な問題点を払拭して、公明正大に合法的に行えるようにすべきである。

40 (85%) 17 (94%) 57 (88%)

- ▶ 献体者・団体の理解、承諾が得られていないと思われるので、十分な説明が必要。

31 (66%) 15 (83%) 46 (71%)

- ▶ 学生実習、研究等の本来業務が評価として優先されるので、医師の手術手技実習も業績評価に取り入れるべきである。

11 (23%) 7 (39%) 18 (28%)

- ▶ 運営予算が不足している。

15 (32%) 7 (39%) 22 (34%)

- ▶ マンパワーが不足している。

24 (51%) 6 (33%) 30 (46%)

- ▶ 献体凍結保存用の設備がない。

19 (40%) 5 (28%) 24 (37%)

- ▶ その他設備面での不足：

4 (9%) 0 (0%) 4 (6%)

(自由記載：未固定遺体のための解剖スペース 2、感染対策 1)

- ▶ その他：以下にお書きください。 8 (17%) 1 (6%) 9 (14%)

(自由記載：解剖学講座スタッフの負担(実務) 5、献体数が不十分 4、保管体制が不十分 4、献体者の理解 4、現在の解剖学講座・篤志献体団体とは独立して新たに運営すべき 4、臨床教室が運営の主体となるべき 3、献体会員・ご遺族への対応を外科医に求める 2、他)

資料3 学生実習以外に献体を使用した活動実績の詳細(手術手技実習も含め)、その内容、参加者、時期、定期開催か否か等につきできるだけ詳細にお書きください。

●●医学部

外科系の講座等から要請があった場合随時行う。内容は、手術のための構造確認が多い。

●●医学部 資料を添付(省略)

- 献体されたご遺体を用いた医師のための手術手技研修と臨床解剖学研究
 - 整形外科：骨、関節、神経等の解剖と術式の研究
 - 麻酔科：神経ブロックや麻酔手技の技術向上
 - 口腔外科：顎関節、口腔、頸部の手術手技研修
 - 消化器内科：内視鏡手技に必要な解剖学
 - 脳神経外科：頸椎固定術の手術手技セミナー
 - 耳鼻科：頭頸部の解剖と手術手技研修
 - 救急部：外傷外科手術や救急蘇生術の術式研究
 - ☆本学臨床各科、保健医療学部その他、他大学、他施設からも医師が訪れています。
- 医学部、保険医療学部の卒後研修としてのご遺体を用いた解剖学セミナー
 - 保健医療学部と解剖学との合同セミナー
 - 脳神経外科学講座と解剖学との合同セミナー

●●医学部

大学院教育としての局所解剖は行っている。

●●医学部

- 3年次研究室研修(教室配属学生2名程度が対象)の実習及び研究に使用。
- 臨床各科の要望に対応しての研究に使用。
- 医学部保健学科の解剖学実習に使用。
- 学外 Co-medical 大学等の解剖学実習に使用。

●●医学部

具体的には<医師が人体の解剖学的理解を深める為に解剖実習を行っている>ものであります。当大学白菊会の会則には、「自己の遺体を●●大学医学部及び同歯学部解剖学の実習研究に、無償で提供しようとする人々によって構成され」とあります。ご入会いただいた会員の方々にも、「医師の手術手技実習に使用する」との説明は行っておりません。これらの事から、実際の行われている実習内容がどの様なものであろうとも、対外的に「医師の手術手技実習に使用している」という説明を行う事が不適切である旨、ご理解下さい。

- 耳鼻咽喉科・産婦人科・脳神経外科等の診療科の医師が、解剖実習を行っています。用いているご遺体の固定などの条件は、全て学生実習に用いるご遺体と同じ条件です。

●●医学部

- 基礎配属（医学科3年次、選択必修、毎年、10明前後の参加あり）の解剖実習、約5～7週間
- 保健学科（理学療法・作業療法専攻）の解剖実習（毎年10～11月、80名）
- 臨床医（殆ど整形外科医）の実習体見学・計測など、2年次の学生実習の進行にあわせて、ほぼ毎年、数名の参加、関節の計測などを行っている。

●●医学部

- 通常

内容：手術手技の練習

参加者：整形外科医師数名、産婦人科医師数名、脳神経外科医師数名、形成外科医師数名、耳鼻科医師数名

時期：不定期、希望があり、使用できる献体がある時

- その他

2006年11月 第13回日本神経内視鏡学会の手技実習に協力

●●医学部

- 本学看護学部学生、学外看護学校や医療系専門学校生に対する系統解剖見学実習。30年以上前から毎年定期的に行っている。参加学校数は15校程度、総人数は700人。使用する解剖体は年間5～7体（教室スタッフがあらかじめ観察対象を剖出しておく）。
- 外科系（整形外科、耳鼻咽喉科、脳外科、麻酔科等）医師による臨床解剖学的研究、実習。
希望に応じて随時対応している。ほとんどホルマリン固定遺体を使用。これまで、極まれに未固定遺体も使用したことがある（凍結横断標本作製、関節腔の解剖学的調査など）。中には研修医の教育のため、手術時の術式にしたがって解剖を進めた場合もあるものと思われる。しかし、あくまで「解剖学的研究・教育」を目的としていると解釈している。
年間10体程度を使用している。

●●医学部

毎年、実習時期以外の春・夏・冬に特別実習として学内に通知し、実施している。設定期間内であれば、

時間は自由。これまでに外科系診療科の医師が多数参加している。当初は上級生の再履修や卒業前の学生達の要望に応じて特別実習を開始した。始まりは約25年前で、その後、本学を卒業した若手医師達の手術手技向上の目的で実習に参加するケースが増え定着した。既に、特別実習を経験した学生達

が、卒後に今度は現場で手術手技の修練の必要に迫られた時、解剖学の重要性と実習の有用性に気付き大きく展開してきたと考えています。

●●医学部

- 夏期臨床解剖実習
参加者数：66名（H20年度）
時期：7月中旬～9月中旬
定期開催しています。

●●医学部

- 平成15年度より、夏期プログラムとして5日間の「臨床解剖セミナー」を開催している。自主参加学生数は15～30名程で、期間中、臨床系教員による模擬術または臨床解剖の解説を6～7テーマ提供している。整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科の先生方にご指導いただいている。高学年の学生には、模擬手術が貴重な学習機会となっている。本セミナーでは6～7体の御遺体を解剖させていただいている。
- 過去5年間に、47件の臨床解剖学、共同研究教育が実施された。模擬手術21件（脳神経外科13件、整形外科8件）と、手術や診断に直結する局所解剖の検討が26件（脳神経外科8件、整形外科8件、耳鼻咽喉科5件、その他5件）である。ほぼ同数の御遺体を、この目的のために解剖させていただいた。

●●医学部

例年7月中旬から8月中旬の5週間を定め、臨床各科から希望を出してもらい、遺体数・使用部位等の調整を行って実施している。各科ごとに都合のつく日程で自主的に解剖を行う。特定のコースは用意していない。毎年約10の講座から希望があり、100名程度が登録している。参加者は原則として学内の教職員と大学院生、解剖は医師にのみ許可し、コメディカルスタッフは見学という形をお願いしている。

●●医学部

- 定期開催 ハンズオンセミナー（脳外）例年8、12月。ハンズオンセミナーで使用されたご遺体については、引き続き見学等を含めた解剖教育に役立っている。随時受入 コメディカル学生に対する解剖体見学実習。

●●医学部

- コメディカル学部（学内）、コメディカル学校の教員および卒業生（実務を行っている専門職）を対象とする夏期解剖セミナー。参加者：約50名、毎年8月末5日間。
- △△微小外科解剖セミナー、脳神経外科主催（死体解剖資格取得）。参加者：実習50人、見学30人。公募のうえ抽選。費用：学内6万円、専門医3万円、見学2万円、手術器具レンタル費用等。

●●医学部

- 1996年より脳外科主催の cadaver dissection course が毎年2日間かけ

て行われている。参加者はスタッフ合わせて約 70 名。手術手技修得、教育が主な目的である。

- 2003 年から大学組織の医学教育統轄センターの基、サージカルシミュレーションラボが設立され、主に脳外科が年間を通し、学生及び医師に対し、cadaver を用いた活動を行っていた。
- 2007 年からこのサージカルシミュレーションラボがクリニカルアナトミーラボと解消され、「医師に対する献体を用いた臨床解剖学教育及び臨床解剖研究の実施」の課題名で、大学倫理審査の承認を受け、現在ではこのラボに、整形外科、脳外科、耳鼻科、救急、産婦人科、形成外科、眼科が参加している。

●●医学部

- 研究を目的とした献体利用
目的：解剖学研究を行っている教員・大学院生、学部学生に対する研究用資料として利用。
参加者：教員（解剖学講座）2 名、大学院生（医学部）数名、医学部学生数名
時期：通年、毎年 1 体程度
- 耳鼻咽喉科学教室による講座内手術手技実習ならびに解剖教育セミナー
目的：耳鼻咽喉科学スタッフの研修
参加者：同教室 20 名程度
時期：年に 1 階 2 日間（6 月～8 月）、定期開催
- ●●大学解剖実習セミナー
目的：●●大学所属の教員、職員、大学院生に人体構造の基本的知識を提供
参加者：30 名程度（●●大学所属の希望者で受講が妥当と認められる者）
時期：2 年に 1 階、2 週間（8 月）、定期開催

●●医学部

- 新しい術式の検討。本学大学院生、不定期、3 ヶ月間、cadaver 5 体
- 脳外科領域の手術手技の修練。2006 年冬より現在まで 3 回実施、期間は 1 回につき 1 週間程度、●●大学医学部脳外科教室員数名、他大学の参加なし、cadaver 3 体/回

●●医学部

7 月末から 8 月中旬、年により下旬まで、解剖実習を終了した学生を対象として解剖実習を希望する者に 4 人でほぼ 1 体になるように実習を行っている。又同時期に外科系と眼科、耳鼻科の医師を対象として各々の探索してみたい個所を中心に 1 体をだして解剖（局所）を行っている。全体に解剖するわけではないのでこの遺体については 9 月-12 月にかけて行う解剖実習の際に教員（教授を含めて）が最前列でモデル解剖に使用している。

●●医学部

- 整形外科医に対する肩手術手技についての勉強会、年1~2回（不定期）
- 婦人科癌手術のための手術手技勉強会、年1~2回（不定期）
標本供覧とデモンストレーションのため実習はない。

●●医学部

- 上級学年の学生に対する局所解剖（選択実習）
- 耳鼻科研修
耳と鼻領域の鏡視下でのマイクロサージェリーのトレーニング

●●医学部

過去に脳神経外科学教室と共同して、「手術手技のトレーニング」を実施した経験がある。2~3回実施。2日間のコースで、参加者の正確な人員は把握していない。

●●医学部

整形外科分野の職員による局所解剖を理解するための解剖実習を行っている

（毎年夏に約一ヶ月、参加者は7~8名程度）

●●医学部

毎年夏休み期間中（7月末~8月）に、約20体のご遺体を、医学部上級学年の実習希望者、臨床医の手技訓練、医学研究のために供している。

医学教育以外に献体を用いることについて、H17年度に大学の倫理委員会と協議し、白菊会規約を変更、新入会申込書の作成により、献体の扱いもそれに基づいている。要点は、

1. 医学研究に用いるご遺体は、研究に対して同意を得たものに限る（標本の採取も同意をえる）
2. 医学研究のみにご遺体を用いることはできない。教育用途にも用いる（献体法によるため）
3. 医学研究は大学倫理委員会から認可されたものに限る。
4. 手技の訓練は医学教育に含まれる。ただし新しい手技の開発は研究にあたる。
5. 毎年のご遺体の使用状況を、解剖学教室より大学倫理委員会に報告する。

会員に以上のことを理解してもらい、H18年度より夏期実習を開始した。これまでに医学研究としては3件（形成外科の皮弁を用いた機能再建、整形外科の手関節の解剖、病理学の顔面リンパの研究）があり、それぞれ3~4体のご遺体を使用した。研究に用いた部分以外は医学部上級学年が実習を行った。

手技訓練に関しては、臨床外科系の教室を中心に、毎年5~6教室から申込があり、それぞれのグループに数名の医師が参加し、自主的に解剖を行っている。

●●医学部

外科学的な手術アプローチや皮弁形成を行う場合の脈管、神経分布の詳細を

確かめたりする研究の一部に用いたりした。定期的な（臨床医の為の）開催は特にない。

●●医学部

- 膝関節外科解剖の研究
3～4名、平成19年まで、解剖実習中、不定期
- 頸椎椎弓手術の解剖学的研究
3～4名、平成19年～、夜間週1回程度

●●医学部

添付書類「解剖許可願」（省略）

●●医学部

- 外科系大学院生の学位研究
- 脳外科手術手技実習

●●医学部

学生実習期間9～1月、それ以外の5月～6月に1～3週間程度局所解剖として実習を行っている。

●●医学部

脳神経外科研究集会 参加者20名以上 9月5、6日 定期開催

●●医学部

- コメディカル学生に対する見学による実習（内容）
当校の教官と学生（参加者）
時期は本学実習終了後
基本的に定期開催の形

●●医学部

- 脳外科学の若手医師のための研修、年2回（ほぼ定期）、3体×2使用、参加者約15～20名
- 耳鼻科医のための内視鏡による解剖研修、年1回、参加者数人、2体使用
- コメディカルの再教育として解剖実習、数年前に2回実施、現在は実施していない。
- 整形外科が研究に使用中（大腿骨）、不定期に術前局所解剖を行うことがある。

●●医学部

新しい術式開発のための解剖学的研究、脳神経外科、整形外科、医師、不定期

●●医学部

血管の変異をはじめとする、様々な肉眼解剖学的研究

●●医学部

- 定常的な提供
夏季に限定して約1ヶ月半、臨床系医師、歯科医師（●●大学医学部附

属病院の医師、歯科医師に限定)に解剖を許可しています。「局所解剖実習」という名前で行っています。対象の局所が重ならない場合、複数の方が希望する場所を解剖しています。

- 単発的な提供

脳神経外科の教授から協力依頼があり、提供。「日本間脳下垂体腫瘍学会」の手術手技講習会 (H20 年 2 月、7 体)

- 医学部

- 2008 年 7 月に本学耳鼻咽喉科の手術手技実習に使用
定期開催ではない。参加人数は耳鼻科の教室員 10 名程度。

- 医学部

外科研修につきましては、以下の 2 つが毎年行われています。

臨床教室 (耳鼻咽喉科学・脳神経外科学) がすべて準備・計画して、解剖学教室は協力しています。

- 耳鼻咽喉科 毎年 6 月第 3 週または第 4 週、金曜日 10:30~16:00、医学部学生の解剖学実習の 1 日を耳鼻咽喉科学教室が担当
耳の顕微鏡解剖:10 台の手術用顕微鏡下に、マイクロドリルを使用して、学生が耳鼻咽喉科医の指導下に側頭骨を削る。土曜日 1 日。
耳鼻咽喉科医 (大学病院& 県内の関連病院) のための外科研修:人数:約 20~40 名。解剖体は通常の学生実習用ですので、20~25 体です。側頭骨は、40~50 になります。
- 脳神経外科 毎年 8 月末の 2 日間 (木曜・金曜)
脳神経外科医 (大学病院 & 県内の関連病院) のための外科研修人数:約 20~40 名。解剖体は 8~10 体です。頭蓋骨と硬膜の除去・縫合のみです。脳実質は無傷ですので、学生実習に支障がありません。
大学の倫理委員会にも承認済みです。

- 医学部

脳外科が手術の練習をしたいということで、御遺体を提供している。しかし、あくまでもそのあと学生実習に使うという条件で、学生実習に支障のある手術練習は許可していない。年 1 回、また、整形外科が、膝蓋腱のサンプルを持っていくこともある。不定期。

- 医学部

- 解剖セミナー:対象:解剖学講座所属の大学院研究生・研究員 (理学療法, 作業療法, 柔整, 看護, 鍼灸), 本学所属の医師。参加者:研究生・研究員 30 名。医師数名 (近年は, 眼科学講座からの参加のみ)
年に 3 回程度開催。1 回あたり使用する遺体数:5~10 体。
目的:大学院研究生・研究員:臨床解剖学的研究および学生教育用の画像教材作成
医師:手術手技 (とくに眼瞼など眼球付属器の術式の開発, 研究)
- 頭蓋底・脊椎手術手技ワークショップ

本学脳神経外科学講座と共同開催。対象：全国（海外を含む）脳神経外科医。参加者：50～60名。年1回開催（5月、6月）。1回あたり使用する遺体数：10～15体

●●医学部

- Fiber Dissection Course（大脳髄質の線維の走行を知る）。2003年6月29日。本学脳外科医師・解剖学教員・医学部学生 計30名程。講師：△△大学解剖学・□□教授
- Cadaver Dissection Course。2007年11月11日。脳外科医師（本学および学外）約30名。脳外科手術に関連した解剖および手術手技実習
上記はいずれも1回のみ開催。

●●医学部

定期開催しています。（添付資料）

「2009年度肉眼解剖セミナーのご案内」

本年も夏休み期間中、下記の要領で肉眼解剖セミナーを開催いたします。人体解剖を行って、人体構造についての疑問などを解決したい、臨床手技の向上を目指したいという熱意をお持ちの方の参加をお待ちしております。

肉眼解剖セミナー実施要領

- 対象 ○医学研究科で人体解剖の経験を有する教員、研究員、大学院生および、市大病院研究医・研修医、
○医学研究科・付属病院で人体解剖の経験を有する医療技術系教職員。（ただし、上記教員等と同一のグループに参加できること）
○医学研究科以外で解剖学を担当または研究分野が関連している、人体解剖の経験を有する教員

人数 制限をしますが、本年度解剖可能ご遺体数は最大12体です。従って、参加希望者または希望解剖遺体数を調整または、お断りすることがあります。

期間 平成21年7月21日（火）より平成21年8月7日（金）まで（土曜、日曜を除く）

時間 午前10時より午後5時まで

申込方法 下記の注意事項をお読みになり、分野・部門の責任者から分野・部門単位でお申し込みください。個人またはグループでの直接の申し込みはお断りします。同一分野または部門から複数の個人またはグループが異なる日程やプログラムで参加される場合は、それぞれ参加申込書を提出してください。

申込期限 平成21年7月3日（金）

【注意事項】

- セミナーは人体解剖の経験がある方を対象に、参加者各自が立てたプログラムに基づいて行います。
- 参加者は、局所解剖、系統解剖のいずれを希望されても結構です。

- セミナーの期間中の出席予定日は、あらかじめセミナー担当者にお知らせください。
- 夜間、土曜日、日曜日はセミナーを開催いたしません。また、実習室外への遺体の搬出、部外者の招き入れ、無許可の写真撮影等禁止事項を厳守ください。(詳細は別紙にて)
- なお、解剖用具以外の器具、機器を持ち込む場合は、あらかじめお申し出ください。

セミナーに関するご質問および参加申込は、下記セミナー担当者までお問い合わせください。

機能解剖学 (第 1 解剖) ●●

●●大学大学院医学研究科 機能解剖学 (第 1 解剖)・機能組織学 (第 2 解剖)」

●●医学部

人体解剖トレーニングセミナー (添付資料)

第 28 回人体解剖トレーニングセミナー

2008 年 07 月 28 日 機能組織学より

●●大学医学部では、1981 年より、若い解剖学教育者を対象とした人体解剖トレーニングセミナーを開催してまいりました。本年も、第 28 回セミナーを実施します。関心をお持ちの方は、当教室ホームページのお知らせをご覧のうえ、お申し込みください。申し込み様式はホームページよりダウンロードできます。

●●医学部

全てホルマリン固定 Cadaver です。

- 医学生：①自主研修 (医 4 年生) 7～9 月。各自でテーマを決め局所解剖を行い、スケッチ等のはいったレポートを提出させる。②春休み解剖実習 (医 3～6 年生) 3～4 月。より深い理解のため、希望者による系統解剖実習を行っている。
- 医師：外科局所解剖の理解と手術手技の向上を目的として、希望する臨床講座にホルマリン固定 Cadaver を提供している。この際、別添のような内規を定め、書面による申請に基づいて審査し、許可条件を付与している。
- コメディカル：解剖実習見学、12～2 月。ミニレクチャー、課題設定、実費について現在検討中です。

●●医学部

臨床科の研究目的の解剖を要請があれば行っています。年間 1～2 名程度です。

●●医学部

時期は肉眼解剖実習中 (4 月～7 月) 毎年

- 耳鼻咽喉科、2 名の医師、内耳の解剖

- 整形外科、2-3名の大学院生、膝、足関節の解剖

●●医学部

- コメディカル学生の見学（見学のみで解剖は行っていない）
- 整形外科膝股関節等の解剖学的研究
- 脳外手術手技開発のための解剖学的研究
- 脳外手術手技教育研究セミナー

●●医学部

例年1回、臨床局所解剖セミナーを開催している。

参加者：●●大学医学部附属病院の医師、研究者、大学院生、研修生（外部には許可していない）

時期：通常は1月末～2月（定期的）

- 第1回 1998年9月24日～9月30日 15プロジェクト（参加者71名）
- 第2回 1998年12月18日～12月25日 10プロジェクト（参加者40名）
- 第3回 1999年9月16日～9月22日 11プロジェクト（参加者55名）
- 第4回 2000年9月22日～9月29日 9プロジェクト（参加者37名）
- 第5回 2001年9月7日～9月17日 11プロジェクト（参加者59名）
- 第6回 2002年5月31日～6月21日 11プロジェクト（参加者70名）
- 第7回 2004年2月4日～2月25日 12プロジェクト（参加者75名）
- 第8回 2005年2月3日～2月24日 15プロジェクト（参加者89名）
- 第9回 2007年2月2日～2月23日 15プロジェクト（参加者103名）

以下略

●●医学部

- パラメディカル学生のための遺体標本作製；研究室員とパラメディカル教員が参加し、20年以上前から5～7年毎に。
- パラメディカル（主にリハビリテーション科）学生の見学実習、主に教員が解剖し、学生は控え目に参加。2年前から。
- 臨床系教員参加による解剖。臨床系教員の希望により適時に実施。（外科手技実習ではない）
- 研究用材料として、解剖。適時

●●医学部

- 脳神経外科医師 10数年前より定期開催、脳外マイクロサージェリーのトレーニング
- 整形外科医師 10数年前より定期開催、各種手術手技のトレーニング
- 産婦人科医師 数年前より不定期、手術手技のトレーニング
- 耳鼻咽喉科医師 数年前より不定期、手術手技のトレーニング
- 口腔外科医師 数年前より不定期、手術手技のトレーニング

●●医学部

脳神経外科学、整形外科の教室が、系統解剖実習の終了後、1～2週の期間で、教室の大学院生、若手の医師を中心に、（実習が2月上旬には終了し

ますので、2月上旬～中旬の期間となります) 数名～十数名が参加して、手術手技の検討や修練に献体を3～5体程度使用しています。

開催は毎年ということではなく、希望教室からの申請があった場合に、行っています。

●●医学部

学位論文研究を含む研究目的で使用実績あり (1. 膝関節、2. 筋腱接合部、3. 脳等)。

●●会 (篤志献体の会) の承認を経て、入会時承認、研究開始前の再度承認 (ご遺族による)、医の倫理委員会の承認を経て実施

●●医学部

脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科の臨床解剖を行っている。脳神経外科と耳鼻科は、ope用の顕微鏡を持ち込んで、手術と同様のアプローチを行いながら、局所解剖の勉強をしている。

●●医学部

臨床系教室からの要望によって、次の様な研究に御遺体の使用を認めています。これらは「手術手技」修得を目的としたトレーニングではありません。

- テーマ「顔面静脈の立体的解析 (動脈系との走行位置の解析)」、申請教室一形成外科系教室 (講師ら2名)、期間一平成21年5月～22年3月
- テーマ「臨床実習における内視鏡下副鼻腔解剖と副鼻腔手術」、申請教室一耳鼻咽喉科学 (講師ら7名)、期間一平成20年4月～21年3月
- テーマ「腰部脊柱管狭窄症における馬尾弛緩の組織学的検討」、申請教室一整形外科学 (准教授ら4名)、期間一平成20年2月～12月

●●医学部

- 学生実習アドバンストコース
- 本学医学部保健学科 (理学療法学専攻・作業療法学専攻) 解剖学実習
- 本学薬学部解剖学実習
- ●●大学院医歯薬学総合研究科 (修士課程) 医歯科学専攻解剖学実習学外の医療系等教育機関の学生を対象とした解剖学実習 (以上、詳細省略)
- 臨床解剖
 - 脳外科 (5名, 10回; 医学科と共用、1体)
 - 整形外科 (2名, 10回; 医学科と共用、10体)死体膝を用いた総腓骨神経の解剖学的走行と鏡視下前十字靭帯再健術における経内側膝蓋下ポータルテクニックによる大腿骨骨孔作成時パッシングピン刺入角度の関連性

●●医学部

- 整形外科: 膝関節外科手技及び計測等
- 脳外科: 脳外科手技の実習、頭蓋窩へのアプローチ
 - 5-6人の参加者
 - 実習中の時期で実習時間終了後 (4:00～5:00頃から開始)。定期開催

ではない。

●●医学部

- 2000年頃：脳内視鏡手技のデモ（脳外科と業者）
- 2005年頃：整形外科、人工関節の手術前確認
- 2005年頃：形成外科、皮弁の修練のため、頭蓋形成の手技練習

●●医学部

- 6回生に対する臨床解剖にて使用、内容：局所解剖、時期：定期開催、参加者：計12名、1グループ3名、期間：3週間、1グループに1体使用

●●医学部

前任教授の時代から、外科、整形外科等の手術手技の検討に献体を利用して頂いていたと聞いております。近年は、あまり行わなくなりましたが、本年、脳外科と耳鼻科から利用したいとの申し入れが有り、教授会で検討して頂きました。その結果2009年6月の教授会で「●●大学医学部教授会としてコメディカル解剖と医療スタッフを対象とした生涯教育研究に御遺体を使用することを医学部として公式に承認」して頂きました。

今後は学内倫理委員会を通して個別に検討し、本年度中に開始する予定です。ただ、「手術技術の習得を目的」として前面に出すことは現段階では控えております。臨床各科の臨床医が内部構造をさらに深く観察、研究することを主目的とし、その間に種々の有益な検討、発展的議論をすることは御遺体を医学の発展の為に望ましいことだと考えております。

「御遺体を利用したコ・メディカル教育、臨床教育及び臨床研究について」
(資料抜粋)

【目的】

従来、御遺体の解剖については解剖学教授が判断、実施してきたが、医療現場の変化し、要請が多様化するに伴い、医歯学生の教育について規定した現法律を拡大解釈して解剖を行う必要が出てきた。従来から全国的に行われてきた事例についても一般社会に対する説明責任も生じてきた。現に御遺体を使用した研究発表や活動に倫理委員会の承認を文書で求める学会も出てきている。

解剖についての最終的な法的責任は解剖学教授に有るものの、その内容について大学又は学部の公式な組織において承認を受けておく方が、解剖学教授としても実施組織としても大学としても安全である。

そこで、医学生・歯学生のみならず、医療スタッフを目指す学生の教育、及び医師・歯科医師・看護師・療法士等医療スタッフを対象とした生涯教育、研究に御遺体を使用することを医学部として公式に承認して頂きたい。

【今回】

教授会了承

1, 学生・歯学生のみならず、医療スタッフを目指す学生の教育、研究に御

遺体を使用することを●●大学医学部として公式に承認

2, 医師・歯科医師・看護師・療法士等医療スタッフを対象とした生涯教育、研究に御遺体を使用することを●●大学医学部として公式に承認

【具体的な事例】

個々の事例は学内倫理委員会承認

- 医療教育解剖研究会等 従来 of 活動についても
- 高度医療スタッフ教育
- 付属病院スタッフ見学

個々の事例は学内倫理委員会承認

- 手術法の練習、臨床研究等 従来 of 活動についても
- 卒後研修、生涯教育
- 学会での手術デモ

【今後の手続き】

研究会、総合臨床研修 C、総合医学教育 C、各講座等実施組織から解剖学発生学分野に相談。実施計画案等について相談後、学内倫理委員会に提出し承認を受ける。

●●医学部

毎年 8 月～9 月中旬

- 脳外科、頭蓋底の血管・神経の走行の理解
- 整形外科、関節近傍の神経・血管の理解
- 耳鼻咽喉科、甲状腺周囲の神経・血管の理解
- 外科、臓器の位置の確認
- 婦人科、骨盤内臓器、血管、神経の走行の理解

●●医学部

実習期間中以外の時期に献体の姿勢が悪く、学生実習の御遺体としては難しい献体を用いて、脳神経外科あるいは耳鼻科の若手医師が各講師の指導のもと行っている（不定期）。参加者、各科 4～5 名程度。

●●医学部

- 整形外科領域の骨計測調査、人工骨頭フィッティングの研究
- アブミ骨可動性に関する検討（耳鼻咽喉科）

参加者：各科医師、時期：この 2 年間の定期解剖実習後（医学生が解剖した後の御遺体を用いた）（定期開催ではありません）

●●医学部

大学の倫理委員会で昨年 4 月から審議されてきた「外科解剖教育と手術手技教育のための献体登録」が本年 6 月に承認された。現在は、個別の教育プログラムである脳外科からの手術手技教育プログラムが倫理委員会で審議されている。資料として「外科解剖教育と手術手技教育のための献体登録」の関係書類を添付いたします。（まだ●●会会員への書類の発送は行っていません）（詳細省略）

●●医学部

股関節の研究のため、●●大学医学部整形外科の医師が献体を使用することがあります。

使用者：●●大学医学部整形外科の大学院生とその指導医（1研究につき2-3人）

頻度：この10年間で3-4回。

目的：股関節・肩関節の骨、周囲の靭帯・筋肉・血管・神経などの位置などを測定し、肩・股関節の疾患、手術手技、人工関節などの研究に利用

献体数：学生で使用する献体の片側を使用（20-25体/年）

時期：学生実習が行われている同時期

手術手技実習には使用していません。

●●医学部

● 脳神経外科研究集会 参加者20名以上 5月30、31日 定期開催

● 整形外科人工関節研究集会 参加者10名以上 数年前1回のみ

●●医学部

● 耳鼻科の主として新入医局員が内耳領域を中心とした解剖の勉強をするために、学生実習で内耳を解剖していない頭半側を貸し出し（毎年、ほぼ3側、3~4日間）

● 形成外科で顔面・頸部領域の再建手術における頸横動脈利用の可否を知る目的で、学生解剖実習遺体で調査・計測。（2007年度、2008年度実習）

●●医学部

毎年、8月中に2週間にわたり、定期的に、全国の大学等で解剖学教育に携わる教官、研究者、大学院生や、医学関係の研究に携わりながら、医学部以外の学部出身であり解剖学実習の経験の無い人を対象に解剖学教育のあり方等を考えていただいたり、人体の構造を理解していただくために、「人体解剖学実習セミナー」を開催しており、平均して毎年20名ほどの参加者がいます。このセミナーでは3回のセミナーを1クールとして計画しており、毎年異なった部位を観察し、3年で全身を観察することになります。

●●医学部

コメディカル学生への解剖見学実習に使用させていただいている。学校、人数等は別紙参照下さい。（省略）

●●医学部

● 耳鼻科での耳の手術のトレーニング

● 脳外科での脳の手術のトレーニング

上記はそれぞれの診療科の希望により、年に1体か2体提供

●●医学部

2年次、4年次の学生実習用の献体を用いて、大学内の医師に限り、実習に参加してもらっている。ただし、学生への指導もお願いしています。案内文を添付します。

(案内文)

●●大学医学部

分野主任 各位

2009年8月9日

4年次基礎研究局所解剖学実習への参加のご案内

拝啓

梅雨の候、先生には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より、本医学部の献体団体である、〇〇会の活動ならびにご遺体の収集にご理解とご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。

さて、4年次の基礎研究局所解剖学実習が始まります。現在、実際に医療に携わっておられる医師の皆様方におかれましてもご遺体を用いてトレーニングなり研究をしたいとのご要望が強くなっております。そこで、各医局のご要望にお応えしたいのですが、4年次の学生にもちいます10体のご遺体を、先生方の学問的、医療的関心に基づいて学生とともに、解剖に参加されてはいかかかと思ひご案内を差し上げる次第でございます。

期間は、6月15日(月)から7月9日(木)まででございます。もし、希望される場合、参加できる期間ならびに時間、解剖したい部位(頸静脈孔付近とか、距腿関節付近など)、参加される方のお名前を、△△までお知らせいただければ、ご幸甚に存じます。ただし、ご遺体の数、期間などに制限がございますので、ご希望にそえかねる場合もございますので、あらかじめご了承をお願い申し上げます。

敬具

●●歯学部

● 頭頸部解剖実習

● 口腔外科手術手技の実習

参加者：同窓卒業生。時期：年に1回、2002年～2007年までの6回(前任教授による)、2008・2009年は実施していない。これは、法の解釈や献体者団体の理解・承諾など環境が整っていないから、現在中止している。

●●歯学部

● 形成外科：顔面皮膚の加齢変化の研究(顔面皮膚の構造と排導系脈管の検索を目的に顔面の表情筋を含めた、全載標本を切片として検索している)。

● 整形外科とリハビリ科：膝関節外科解剖、膝関節の解剖の一部を学生と共同で行うのと、数体を専用に用いている。

●●歯学部

● 頭頸部筋のバリエーションを調べた研究

● コメディカルに対する見学実習

●●歯学部

●●大学歯学部障害研修セミナー「実践・インプラント治療のアドバンスド